

横浜市音楽研究会 研究部 器楽 部会記録				
日時	平成29年1月10日(水)			
部会名	研究部 器楽部会	主任	梅田 佳美	
参加数	9名	司会	梅田 佳美	記録 加藤 紫乃
研究内容	<p>研究部テーマ 子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</p> <p>器楽部会テーマ 「子どもが楽曲の特徴や面白さに気づき、その楽曲への思いを大切にして、豊かな表現をめざす器楽活動」</p> <p>研究仮説 「楽曲の特徴や面白さに気づき、指導法を工夫することで探究的、協働的な活動が生まれ、豊かな表現をめざす器楽活動になる」</p> <p>【12月授業研 実践の振り返り】</p> <p>○梅田主任の分析・検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴や面白さに気付く…グループ内のそれぞれのパートごとの活動は目標をもって取り組めたが、グループ全体の課題が明確になっていなかったために、グループとして、まとめ上げていく部分において目標を見失っていた。 ・探究的、協働的活動…パートの役割を抑えることで学び合いが生まれ、協働的な活動につながった。 ・豊かな表現をめざす器楽活動…全体の合奏がどうであったのか、豊かな表現に結びついていかるところが弱かった。また、振り返りを学習カードに書くとき、教師の指示が曖昧で、次時の課題を全体で共有できなかった。 <p>↓</p> <p>豊かな表現活動の在り方が今後の課題となってくる。全体合奏の仕方として豊かな表現をさせるための声かけや具体的な支援を考えていく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の技能の向上があつてこそその器楽活動→低学年からの技能の習得が不可欠。 <p>○森教諭によるその後の授業展開の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の音のバランスや互いのパートの音をよく聴いて演奏するという目標に向かって、音の重なりや強弱に重点を置き演奏した。 <p>【実践提案】 南神大寺小 後藤先生</p> <p>○学習の主題「曲想を生かした表現を工夫して演奏しよう」 6年生</p> <p>○中心教材 「ロンドンデリーの歌」 ソプラノリコーダーとアルトリコーダーの二重奏曲</p> <p>○共通事項 旋律、フレーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「速度」「強弱」「息つき」それぞれのグループに分かれて、曲想にふさわしい工夫を考えた。それぞれの工夫をひとつ選び、選択した工夫ごとにグループを作った。 ・より旋律の流れやフレーズに合った工夫になるように相談し、グループで表現する工夫を考える。 <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に出席者で楽譜を見ながら演奏した。ソプラノリコーダーとアルトリコーダーを担当した。合奏することによって、よりフレーズを合わせようとしたり、旋律部分の音量のバランスを考えようとする気持ちが生まれ、豊かな表現で演奏することができた。 ・アルトリコーダーの楽譜の難易度が少々高かったが、普段から演奏することに慣れていることで、技術を習得することが容易である。今回の授業研の課題に迫る内容だった。 			